



令和3年12月31日

TEL・FAX 0954-66-3113

発行責任者 江口 常雄

す 住 けん 元 げん き 気 な 緑 の 郷 大 草 野

しめ縄作り 上手くできました！ <12月17日(金)>

今年を振り返り、反省をしつつも、来年にチヨー！期待しよう！



毎年、5年生はコミュニティの5ジイバーと色々な体験行事と一緒にやりますが、このしめ縄作りが最後の行事になります。とても楽しく一緒の時間を過ごせたと思います。 (市長、しめ縄ゲットでニッコリ！)

今年は、サプライズで来てもらった市長も参加してもらいました。そして、指導者の方達が、5年生のために見本として作ったしめ縄を、市長にプレゼントしました。市長も嬉しそうでした。

子ども達は、最初の方は苦戦していましたが、要領が少しずつ分かるにつれて、スムーズになっていき、「おーっ！こりやええとこできとる」と、指導者の方にほめられていました。

コロナ禍が色々な場面に「不自由」という形で姿を現しますが、子ども達は負けずに、元気に新年を迎えてください。(上の写真は、みんなで記念写真！)



校内マラソン大会 12/22(水)

とにかく、快晴でした！早朝は少し寒かったのですが、太陽の力は有り難いものです、応援していて少しも寒さは感じませんでした。3年生、それから2、1、4、5、6年生の順に走りました。途中で転んで少しベソをかいて遅れる子もいましたが、みんなの声援で最後まで走り切りました。

昨年、初めて見に行って、「6年生の男子に一人



きれいな走りをしていた子がいた。」という話をしたら、その子は中学に入って陸上をしている、ということを知り、ちょっと嬉しくなりました。今年は、5年生の男子にいい感じの子がいました。興味や関心を育て、本人が「もっと早くになりたい！」思うような指導があればと思います。私が長距離をして、一番よかったことは、スタミナが付くので、長期間の、そして量が膨大な仕事でも、少しずつでもやっていたらいつかは終わる、と思えるようになったこと、だから、逃げず

にそれに向き合えました。右の、一人で走っているかのような2枚の写真は、低学年の子たちの様子ですが、この2人に共通することは、重心が高く、推進力が前の方に働いていて、腕がしっかり振れていることです。拳の位置が低かったり、背中が丸まっていたりすると、重心が下がったり、力がちゃんと伝わらなかったりしてロスが多い走り方になります。

まだ低学年で未知数ですが、将来楽しみだと思います。ゲーム機の浸透などで子ども達の体力にも二極化が顕著になっていますが、動ける体力は大人になって必須です。動くことが嫌いにならないようにしていくことも、大人の責任のひとつだと思います。



また、イノシシが！！

校内マラソンを応援した後、ホテル人工池の様子を見に行ってみました。「あれ、誰かが耕してくれたのかな？」と思うほど、浅く広く土が掘り返されていました。柵の様子を見て回ると、1カ所、フックが外れ少し開いていました。

もう、がっかりです！ イノシシとのイタチごっこ？

それに、今年手当たった水の流れも無くなっているようです。ホテル、思うように再生できません。(悲)



〈編集後記〉
『機会があれば…』

六十歳で定年退職した年に、三度目の左膝の手術をしました。それ以降はジョギングもできない状態になり、歩くことで筋力維持に努めるようにしています。

子ども達に陸上に限らず、運動好きな子どもたちが増えるような教室をしたかったので、自分が動けなくては無理だろうな、と諦めています。

しかし、校内マラソン大会などを見ていて、体つきにも二極化があつて、昔のわんぱくな体型の子が少ないな、と思うと、少し、モヤモヤムズムズしてきます。

小学生の頃は、基礎体力や基本となる運動神経を養う時期だと思っていますし、なにより、スポーツを好きになることが一番大切だと思います。技術的なことは、中学生になってから十分間に合うと思います。

小さい頃にしか養えないのは、敏捷性や瞬発力。持久力はトレーニングが嫌いでなければいつでも養えます。楽しみながら一緒にできる機会があればと思います。